

KSKPコリアボランティア協会ニュース, No.35 (1999.6.5号)

コリアボランティア協会編集部編

発行:大阪 : コリアボランティア協会, 1999.7.5. ; 7,[3]p

請求記号:震災-7-z82

※震災関連記事のみテキスト化しています

<阪神大震災復興支援>

被災地発、全国のみなさまへ

被災された方々を日々心に留め、今も励ましの手紙を送って下さったり、又、支援活動を支えるためのカンパをお送り下さる全国の皆様、変わらぬご支援ありがとうございます。

今、被災地では仮設の“灯”が一つ又一つ消えようとしています。仮設を出る人、残る人、慣れ親しんだ者同士が離れる時、年老いた方々をつないでいた“灯”が一つ又一つと消えて行きます。毎日のように語り合った相手が仮設を去り、身寄りも行く当てもない90にならんとするお年寄りが、仮設の縁側にポツンと一人坐り、移転した方も、ガラとした小ざれいな部屋にやはりポツンと坐り...といった光景が被災地に広がって行きます。

当協会では、孤立して行くお年寄りの日々のコミュニケーション作りのため、2年前より被災地の小中学校に、全国の子供たちから寄せられた励ましの手紙を綴った“全国文通文集”の地元での配布を呼びかけてきましたが、昨年11月より神戸市長田区の長田小学校の子供たちと共に配布を始め、この4月からは、同じく駒ヶ林中学校でも配布が決まりました。

又、全国から届く手紙も4千名・1万通をこえ、学校単位での取り組みも50校余りを数え、被災地の小中学校との姉妹縁組もすすめています。

被災の傷あとがますます見えにくくなり、震災自体が風化されようとする中でも、子供たちとお年寄りをつなぐ心のきずなは広がりを見せています。左の写真のように被災地でも“長寿友の会”のように24時間体制で高齢者を支えている所もあり、当協会でもこのようなきずなが広がる限り、これからも支援を続けて行きます。支援を下さる全国のみな様、これからも被災された方々を励ます手紙や文通、又、支援活動を支える応援カンパをよろしく願いします。

<鄭チョン>

[写真あり 移転先を訪れて食事会、全国からの手紙や文集を渡す。 <神戸市長田区・西代仮設“長寿友の会”の方と共に> 省略]

阪神大震災“被災地・発”特別カンパのお願い

仮設住宅がなくなろうとしています。

移転後に、高齢者や障害者にとって、仲間と離れ離れになりこそすれ、通院や身の回りの介助などを考えれば、決して生活が改善されるわけではありませんが、ともかく、仮設生活最後の節目として何か心に残るものを...

ということで、前号に紹介した神戸市長田区の西代仮設・長寿友の会（長尾代表）を中心に、共催で夏のイベントを組むことになりました。

現在、コンサート、炊き出し、ふれあいコーナーなど、各方面に交渉中ですが、プレゼントなど何か心に残るものも準備したいと考えています。

つきましては、仮設最後のふれあい行事を実現するための、みなさまからのカンパを呼びかけたいと思います。

詳しくは当協会（TEL・FAX06-6717-7301）：震災リーダー鄭（チョン）までご連絡下さい。

カンパは郵便振替（00920-6-29408コリアボランティア協会）まで、お願いします。